

令和7年（2025年）2月13日

西宮市議会議長 八木 米太郎 様

## 民生常任委員会 管内視察報告書

■視察日時 令和7年（2025年）1月8日（水）  
午前9時15分から午前11時35分まで

■視察委員 委員長 菅野 雅一  
副委員長 ありめこうへい  
委員 大原 智  
〃 しげひさ 大学  
〃 宮本 けいこ  
〃 よつや 薫  
〃 渡辺けんじろう

■欠席委員 委員 田中正剛

■視察先 満池谷火葬場 西宮市奥畑7番115号  
〃 墓地 西宮市奥畑、神原  
〃 斎場 西宮市神原13番41号

■視察事項 満池谷火葬場・墓地・斎場について

■視察先対応者 環境総括室参事 角田 誠次  
斎園管理課長 上坂 元司  
斎園管理課係長 小西 政直  
斎園管理課係長 柴田 聡

### ■視察概要

#### 【満池谷火葬場】

満池谷火葬場は五輪・日本管財グループを指定管理者として運営している。施設は奥畑7番115号に位置し、鉄筋コンクリート造2階建てで建築面積844.80㎡、延床面積789.48㎡。火葬炉11基や炉前ホール、告別室、収骨室、待合室、事務室、監視室がある。平成3年3月に完成。

火葬場使用料は市内の12歳以上は10,000円、市外の12歳以上は30,000円。市内の12歳未満は5,000円、市外の12歳未満は15,000円。市内の胎児又は体

の一部は 2,500 円、市外の胎児又は体の一部は 7,500 円。利用状況は令和 5 年度で市内が 4,603 件、市外が 667 件。

満池谷火葬場は平成 3 年から稼働しており、設備の維持のため、令和元年度から令和 5 年度にかけては、1 年度あたり 2～3 炉の耐火煉瓦積み替え工事等を実施している。安定した火葬場の運営を行っていくためには、計画的に火葬炉等の設備を更新していく必要があり、高額となる火葬炉等の設備の更新に必要な財源を確保する必要がある。

財源確保の方法を検討するにあたっては、他市で取り組まれている火葬場において収骨（お骨上げ）後に、収骨されなかったお骨や灰（以下、「残骨灰」）を活用するといった事例も参考に検討する必要がある。

満池谷火葬場については、令和 9 年度以降 5 年で約 6 億 5 千万円（見込み額）をかけて、火葬炉の解体更新工事を行う予定となっていることから火葬場の運営、維持に関する費用の財源確保のためにも、火葬場使用料の見直しを行う必要がある。特に、市民以外に適用される大人の火葬場使用料については、近隣市と比較して、1 万円以上低くなっており、使用料の見直しに向けた検討が必要との意見も多い。

#### 【満池谷墓地】

市立墓地 5 か所及び満池谷納骨堂は平成 25 年 4 月から平成 30 年 3 月まで、一般財団法人西宮市都市整備公社を指定管理者として指定していたが、平成 30 年 4 月から市の直営となっている。なお、甲山墓園に加え、令和 6 年度からは白水峡公園墓地についても、一般社団法人西宮高齢者事業団を指定管理者として指定している。

満池谷墓地は明治 45 年 4 月、満池谷に 8,434 m<sup>2</sup>（墓地敷 6,855 m<sup>2</sup>、火葬場敷 1,579 m<sup>2</sup>）の墓地を創設。以後 3 回にわたって拡張整備し、現在にいたっている。

市は多死社会の到来を踏まえ、墓地の適切な供給量を確保する観点から①今後、一般墓地の新規整備は行わずに、墓地の返還にともなう空き区画の再公募により墓地需要に対応する②空き区画となった墓地を整理し、早期に公募することができるよう墓地公募事務の民間委託を行う③一般墓地の需要を満たすため、応募者の当選機会を増やせるよう公募方法の見直しを行う④公募しても申込のない一般墓地のうち大きな区画で使用料が高額となっていることが要因となっていると考えられるものについては、申込みが多くある区画面積になるよう区画割を見直す⑤白水峡公園墓地は直近の公募における応募倍率が 1 倍を切っていることから、随時募集に変更することで空き区画解消に努める一の方針で進めている。

#### 【満池谷斎場】

満池谷斎場は神原 13 番 41 号に所在し、鉄骨造平家建一部 RC 構造（地階）で、

建築面積 488.25 m<sup>2</sup>、延床面積 632.10 m<sup>2</sup>。主要施設は斎場（60 名収容）やホール、和室A（18 畳）、和室B（18 畳）、事務室。平成 3 年 3 月に完成。

市営葬儀は民間業者と同様の葬具・霊柩バス等を使用し、「心のこもった清楚で低廉な葬儀」をモットーとして平成 25 年 4 月から一般財団法人西宮市都市整備公社が実施している。

葬儀については、価値観の多様化にともない、家族のみで執り行う「家族葬」や火葬のみ執り行う「直葬」が多く見られるようになってきていることから、これらのシンプルな葬儀に積極的に対応することが求められている。なお、市営葬儀に占める家族葬及び直葬の割合は過去 3 か年度において 6 割弱を占めている。

満池谷斎場は竣工から 30 年以上経過していることから、施設の老朽化が進んでおり、利用者アンケートにおいても、施設の老朽化（トイレが和式であることやシャワー室がないこと等も含む。）への対応を望む意見が散見される。また、遺体安置所が斎場とは別棟で簡易な建物内に設置されており、設置場所の改善を求められている。

以上

■ 視察風景  
(満池谷火葬場)



(満池谷斎場)

